

明治大学国際交流基金事業外国人学識者招聘プログラム

招請報告書

研究・知財戦略機構特任講師 眞島英壽

プログラム名：アポイントメントプログラム

招請外国人学識者：Markó András

所属機関：Hungarian National Museum, Archaeologist, art curator

招請期間：2018年10月24日～10月31日

黒耀石研究センターでは黒曜石研究の国際化を設立目的の一つとしている。現在、この目的達成のため、ハンガリー国立博物館と連携して共同研究を推進することを計画している。この共同研究が実現すれば、ヨーロッパと日本という、ユーラシア大陸東西の中緯度地域における先史人類行動を並進的に理解することが可能になり、黒曜石研究の内容が一層高まることが期待される。また、黒耀石研究センターは黒曜石の化学分析に、ハンガリー国立博物館は物性分析に強みを持っており、両者が協力することによって、これまでにない黒曜石理化学研究の推進も可能になる。そこで今回、共同研究の足がかりとして、ハンガリー国立博物館の若手研究者である Dr. Markó András を、明治大学国際交流基金事業を活用して、日本に招請した。

2018年10月24日にハンガリー・ブダペストからフランクフルトを經由して羽田空港に到着された András 研究員を出迎えた。András 研究員とは2014年の COLS International Workshop for young Scientists (長和町) や2016年の International Obsidian Conference (伊・リパリ) で会っており、すぐに打ち解けた。András 研究員を駿河台キャンパスの国際連携事務室に案内して、諸手続きを行った。25日には、ハンガリー国立博物館と本学大学博物館の交流促進をはかるため、大学博物館に案内し、島田和美学芸員らと意見交換を行った。

従来、外国人研究者を招へいた際は、駿河台キャンパスで講演会などを行ってきた。今回の招へいでは、黒耀石研究センターの所在地である長野県の考古関係者に、センターの行っている国際連携について広く知ってもらうために、András 研究員に長野県で講演していただくことにした。そこで、10月26日に長野県へ移動して一泊し、27日に長野県立歴史館で開催した『長野県立歴史館「信州黒曜石文化研究会」・明治大学「人-資源環境系研究プロジェクト」共同研究「信州から世界へ広がる黒曜石研究の最前線」』において、“Use of obsidian during the LGM in Hungary” という題目で講演していただき、通訳を明治大学博物館の島田和美学芸員が行った。長野県は霧ヶ峰や北八ヶ岳などの黒曜石原産地をかかえ、黒曜石研究が盛んだが、外国での研究事例の紹介が行われることはあまりなかった。ハンガリーと比較して多数の原産地があり、収蔵遺物も多量にあるという、黒曜石研究における日本、特に長野県の優位性を一般に理解していただくよい機会となった。また、富山県や新潟県な

ど、遠隔地であることから、駿河台での講演会には参加しづらい自治体からの参加者もあり、黒曜石研究の国際動向を知ってもらうよい機会となった。

10月28日には András 研究員を、長和町鷹山の黒曜石研究センターに案内し、センター関係者向けに、ハンガリーにおける黒曜石研究の現状について講演していただいた。András 研究員は2014年9月にセンターが開催した、COLS International Workshop for Young Scientists に参加して、センターを訪れたことがあり、センター関係者からの質問にも、リラックスして答えていただいた。ハンガリーはドナウ川にそった、比較的温暖な地域に遺跡があるのに対して、センター所在地である長和町は高標高で寒暖差が激しく、両者の比較から先史人類の動態について、新しい見方が生まれるのではないかということで、意見が一致した。

東京に戻った10月29、30日には、今後の共同研究について意見交換を行った。黒曜石製石器の化学分析については、黒曜石研究センターが技術的に進んでおり、基準黒曜石の提供やポータブル XRF による、ハンガリー国立博物館での現地分析などが、研究項目にあがった。一方、ガラス材料としての黒曜石の構造解析には、ハンガリー側に研究実績がある。2019年5月にハンガリーで開催される黒曜石国際会議の際、日本のサンプルを持参し、構造解析を実施する計画を立てた。

10月31日午前に、András 研究員を羽田空港に見送り、今後の共同研究の実施と黒曜石国際会議での再会を約束し別れた。また、András 研究員から、本学国際交流基金事業と、実際の手続きをしていただいた国際連携本部スタッフへの謝意を伝えられた。国際共同研究を実施する際は、相手側との事前のすりあわせが必要だが、メールでのやりとりではなく、直接研究者同士が会って話し合いながら研究を立案することが望ましい。今回、本学国際交流基金事業に採択していただき、András 研究員と直接会って計画を立案することができた。今後、外部競争資金を獲得するなどして、ハンガリー国立博物館との共同研究を進めていただきたい。András 研究員の招へいを実現させていただいた本学国際交流基金事業と、国際連携本部スタッフの皆様に厚く御礼申し上げます。



長野県立歴史館で講演する András 研究員（壇上），手前左 司会の大竹憲昭氏（長野歴史館，明大OB），手前右，通訳の島田和高氏（明大博物館）



黒耀石研究センターで講演する András 研究員